

12.12 景観

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺には主要な眺望点及び景観資源が存在し、道路の存在による眺望景観への影響が考えられるため、景観の調査、予測及び評価を行った。

12.12.1 道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る景観

1) 調査結果の概要

(1) 調査した情報

調査した情報は以下のとおりである。

- ・ 主要な眺望点の状況
- ・ 景観資源の状況
- ・ 主要な眺望景観の状況

(2) 調査の手法

調査は既存資料調査及び現地調査により行った。既存資料調査は既存の文献資料による情報の収集及び当該情報の整理により行った。また、現地調査は写真撮影及び目視により調査を行った。

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の範囲で、既存の文献資料等により主要な眺望点が分布する地域とした。また山地に囲まれた地形条件から、より遠方から眺望できるため、一部眺望点は範囲外の地点も追加している。なお、集落や人家等が周囲に存在しない地域は除外した。

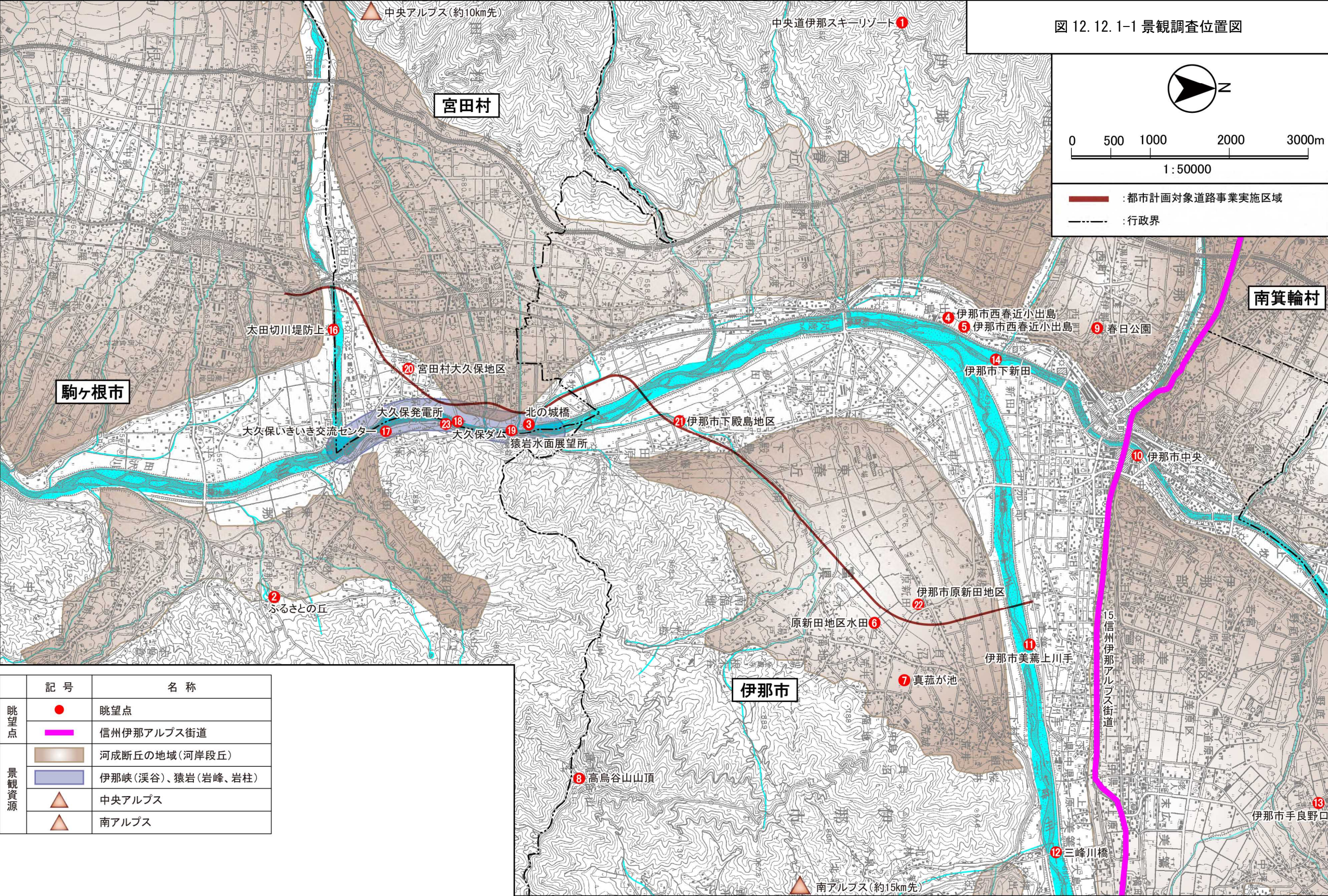
調査地点は、主要な眺望点及び景観資源との位置関係及び計画路線の位置などを踏まえ、主要な眺望景観からの景観に変化が生じると想定される眺望点を設定した。調査地点及び調査対象となる眺望景観を図 12.12.1-1（P12.12-2）に示す。

(4) 調査期間等

調査期間を表 12.12.1-1 に示す。

表 12.12.1-1 景観の調査期間

調査区分	調査期間
現地調査	平成 28 年 11 月 09 日(水)、11 月 10 日(木)、11 月 16 日(水)
	平成 29 年 01 月 17 日(火)、01 月 26 日(木)
	平成 29 年 04 月 23 日(日)、05 月 19 日(金)
	平成 29 年 08 月 19 日(土)、08 月 27 日(日)
	平成 30 年 06 月 19 日(火)



出典:「駒ヶ根市景観計画」(平成25年6月 駒ヶ根市)
「宮田村景観計画」(平成29年4月 宮田村役場建設課建設係)
「伊那市景観計画」(平成26年2月 伊那市建設部都市整備課)
「第3回自然環境保全基礎調査 長野県自然環境情報図」(平成元年 環境庁自然保護局自然環境調査室)
「さわやか信州旅.net」(平成30年7月確認 長野県観光機構)
「伊那市パノラマビューポイントマップ」(伊那市、伊那市観光協会)
「ホームページ」(平成30年7月確認 国土交通省、駒ヶ根市)

(5) 調査結果

a) 主要な眺望点の状況

主要な眺望点の状況を表 12. 12. 1-2 (P12. 12-3～4) に示す。

表 12.12.1-2(1) 主要な眺望点の状況

番号	名称	計画路線 からの距離	眺望点の状況	所在地
1	中央道伊那スキーリゾート	約 5, 530m	伊那市街西側山麓に位置するスキー場であり、眺望点付近は、南北は森林となっているが東側は開けている。	伊那市
2	ふるさとの丘	約 3, 300m	眺望点は公園の高台に位置する。眺望点周辺は東屋等が設けられた展望スポットとなっている。	駒ヶ根市
3	北の城橋	約 100m	信濃の橋百選にも選定されているつり橋。天竜川沿いの景観資源を眺望できる。	宮田村
4	伊那市西春近小出島 (天竜の流れ)	約 3, 050m	天竜川と三峰川の合流地点であり、下流側はより大きな流れとなる。	伊那市
5	伊那市西春近小出島 (天竜川の鮎漁)	約 3, 100m	天竜川と三峰川の合流地点であり、釣り人も多くみられる。	伊那市
6	原新田地区水田	約 220m	水田を手前に中央アルプスを背景にした眺望が得られる。	伊那市
7	真菰が池 (伝説の真菰が池と中央アルプス)	約 730m	民間伝承の舞台となっている池の跡が公園となっており、周辺は農地となっている。	伊那市
8	高鳥谷山山頂 (山頂から望む伊那谷と中央アルプス)	約 4, 310m	伊那谷や中央アルプスを眺望できる展望スポットであり、途中まで自動車通行可能であるが、降雪時には除雪を行っておらずアクセスは困難になる。	伊那市/ 駒ヶ根市
9	春日公園 (雪の春日公園)	約 4, 410m	春日城址を中心とする公園であり、東屋、ベンチなどの休憩施設があり、レクリエーションの場として多く利用されている。	伊那市
10	伊那市中央 (川べりの街並み)	約 2, 250m	一般国道 361 号上であり、展望所などはない。天竜川と伊那市の街並みが眺望できる。	伊那市
11	伊那市美簗上川手 (春の三峰川堤防)	約 590m	堤防上のサイクリング・ジョギングロードとなっているとともに 3km にわたって約 200 本の桜並木が整備されており、撮影スポットとなっている。	伊那市
12	三峰川橋 (三峰川と残雪の中央アルプス)	約 3, 140m	三峰川にかかる橋であり、橋上から中央アルプス・三峰川を眺望できる。	伊那市
13	伊那市手良野口 (収穫の秋の手良)	約 4, 450m	南アルプスの山並みを背景に農地が広がっている。	伊那市

表 12.12-1-2(2) 主要な眺望点の状況

番号	名称	計画路線 からの距離	眺望点の状況	所在地
14	伊那市下新田 (春の天竜川)	約 3,200m	天竜川左岸の土手上であり散策等に利用されている。	伊那市
15	信州伊那アルプス街道	約 850m	一般国道 361 号上であり周辺の景観を眺望するための展望所などの整備はされていない。	伊那市
16	太田切川堤防上	約 500m	太田切川上流側の堤防上であり、散策等に利用されている。	駒ヶ根市
17	大久保いきいき交流 センター	約 690m	地区のイベント等が行われる交流センターであり、天竜川と伊那峽を見下ろす高さにある。	駒ヶ根市
18	大久保ダム	約 180m	大久保発電所の約 400m 上流にある堰堤高 3.5m、長さ約 26m の小規模なダム。近傍に散策道が整備されている。	宮田村
19	猿岩水面展望所	約 230m	景観資源である猿岩の近くに展望所として整備されている地点であり、1 台分の駐車スペースもある。	宮田村
20	宮田村大久保地区	約 130m	宮田村景観計画における田園区域を表す写真に示される地区で、通行が多い県道付近である。村道上の地点であり、周辺には水田が広がる。	宮田村
21	伊那市下殿島地区	約 70m	大沢川田原橋上の地点であり、周辺には大沢川のほか水田が広がる。	伊那市
22	伊那市原新田地区	約 210m	市道上の地点であり、周辺には水田が広がる。	伊那市
23	大久保発電所	約 250m	大久保ダムから徒歩で移動可能な施設であり、天竜川沿いでは対岸の宮田村大久保地区及び中央アルプスが眺望できる。	駒ヶ根市

注 1：伊那市富県北福地（水田と中央アルプス）、御殿場遺跡（御殿場遺跡と中央アルプス）は、地点が近く眺望方向も同様であるため、周辺においてより眺望の開けた原新田地区水田（6）に置き換えた。

注 2：伊那市美簗上川手（春の三峰川堤防）、伊那市美簗上川手（水清く天竜に注ぐ）、伊那市美簗上川手（三峰川、花の季節）は地点が近いこと、伊那市美簗上川手（春の三峰川堤防）（11）に代表させた。

b) 景観資源の状況

景観資源の状況を以下に示す。

(a) 河成段丘の地域（河岸段丘）

位 置：駒ヶ根市、宮田村、伊那市

資源特性：河川の浸食によってできた河岸段丘崖、段丘面を浸食してできた田切地形の斜面、断層のずれにより生じた断層崖等の各種の要因によって、天竜川および支流沿いに河岸段丘地形が形作られており、段丘の際には林（段丘林）が形成されている。段丘林は帯状の緑空間を河川に沿って作り出しており、生物多様性等の環境面に寄与するとともに、特徴的な緑の自然景観を創出している。

景観特性：特に見どころとなる時期はないが、河川沿いに広く分布しているため、対象区域の広い範囲から見るができる。

(b) 伊那峡（峡谷）、猿岩（岩峰・岩柱）

位 置：駒ヶ根市、宮田村

規 模：延長約 3km

資源特性：天竜川の川幅の狭まった駒ヶ根市・宮田村の境界付近が伊那峡と呼ばれる峡谷となっており、大久保ダムにせき止められた小規模なダム湖となっている。右岸側には巨岩の崖が屹立し、猿に似た形状から「猿岩」と称されている。

景観特性：特に見どころとなる時期はないが、北の城橋や猿岩など複数の景観資源が河川沿いに分布している。

(c) 中央アルプス

位 置：長野県南部

標 高：2,956m（最高峰（木曾駒ヶ岳））

資源特性：伊那谷の西側に位置し、南北に延びる広大な木曾山脈を称して中央アルプスと一般的に呼ばれている。中央アルプスは、木曾駒ヶ岳を中心に空木岳、南駒ヶ岳など 2700m以上の山々も多く連なっている。

景観特性：夏の新緑、秋の紅葉や冬の雪景色など四季折々の景観を楽しむことができ、10kmほど西に計画路線と並行して南北に位置しており、広い範囲から見るができる。

(d) 南アルプス

位 置：長野県、山梨県、静岡県

標 高：3,192m（最高峰（北岳））

資源特性：伊那谷の東側に位置し南北に長いこの山脈は、南アルプスと称され、甲斐駒・鳳凰山系、白根山系、赤石山系から構成されており、国立公園に指定されている。本邦第2の高峰である北岳をはじめ、3000m超級の山々が連なる大規模な山脈であり、天竜川や大井川、富士川の源流部ともなっている。

景観特性：夏の新緑、秋の紅葉や冬の雪景色など四季折々の景観を楽しむことができ、計画路線と並行して15kmほど東に位置しており、広い範囲から見るができる。

c) 主要な眺望景観の状況

眺望点からの主要な眺望景観の状況を表 12.12.1-3 (P12.12-7~8) に示す。

表 12.12.1-3(1) 主要な眺望景観の状況

番号	名称	眺望景観の状況	視認できる 景観資源
1	中央道伊那スキーリゾート	眺望点は高台に位置し、東に南アルプスと河岸段丘を眺望できる。	南アルプス 河岸段丘
2	ふるさとの丘	高台に位置し、西側眼下に平野部・河岸段丘を一望できるとともに、正面に中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
3	北の城橋	下流側に伊那峡、猿岩を眺望できるとともに上流側遠方に中央アルプスを望むことができる。	伊那峡・猿岩 中央アルプス
4	伊那市西春近小出島 (天竜の流れ)	眺望点近傍に天竜川が流れ、遠方に南アルプスを眺望できる。	南アルプス
5	伊那市西春近小出島 (天竜川の鮎漁)	眺望点近傍に天竜川が流れ、遠方に南アルプスを眺望できる。	南アルプス
6	原新田地区水田	眺望点近傍には水田が広がり、地平レベルに河岸段丘、遠方に中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
7	真菰が池 (伝説の真菰が池と中央アルプス)	眺望点近傍に水田、奥に集落が眺望でき、さらに遠方に中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス
8	高鳥谷山山頂 (山頂から望む伊那谷と中央アルプス)	眺望点は山頂部であり、西側眼下に平野部・河岸段丘を眺望でき、正面に中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
9	春日公園 (雪の春日公園)	公園内に整備された樹木により遮蔽され園外を眺望できない。	-
10	伊那市中央 (川べりの街並み)	眺望点から川越しに中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス
11	伊那市美簗上川手 (春の三峰川堤防)	遠方に中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス
12	三峰川橋 (三峰川と残雪の中央アルプス)	川に沿って眺望が開けており、下流側に中央アルプスと河岸段丘を眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
13	伊那市手良野口 (収穫の秋の手良)	中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス
14	伊那市下新田 (春の天竜川)	南アルプスを眺望できる。	南アルプス
15	信州伊那アルプス街道	アルプス街道の道路空間越しに中央アルプスが眺望できる。	中央アルプス
16	太田切川堤防上	上流側に河岸段丘および中央アルプスを眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
17	大久保いきいき交流 センター	西側手前に天竜川が流れ、奥に中央アルプスと河岸段丘を眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
18	大久保ダム	水田・集落を手前に、遠方に中央アルプスと河岸段丘を眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘
19	猿岩水面展望所	天竜川に面しており、眼下に伊那峡・猿岩を眺望できる。	伊那峡・猿岩

表 12.12.1-3(2) 主要な眺望景観の状況

番号	名称	眺望景観の状況	視認できる 景観資源
20	宮田村大久保地区	水田が周辺に広がり、奥に集落が眺望できる。	水田、集落
21	伊那市下殿島地区	小水路の橋梁上であり、周辺に水田、奥に集落が眺望できる。	水田、集落
22	伊那市原新田地区	道路沿いに水田が眺望できる。	水田
23	大久保発電所	天竜川越しに中央アルプスと河岸段丘が眺望できる。	中央アルプス 河岸段丘

2) 予測の結果

(1) 予測の手法

道路の存在に係る景観の予測は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第 714 号」（平成 25 年 3 月 国土技術政策総合研究所）に基づいて行った。

a) 予測手順

道路の存在に係る景観の予測は、以下に示す項目毎に行った。

(a) 主要な眺望点及び景観資源の改変

主要な眺望点及び景観資源と計画路線を重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置及び程度を把握した。

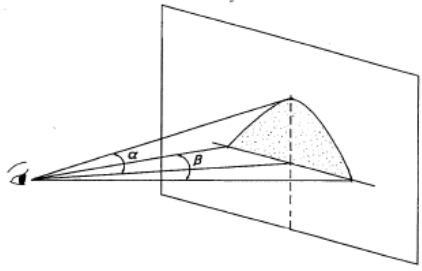
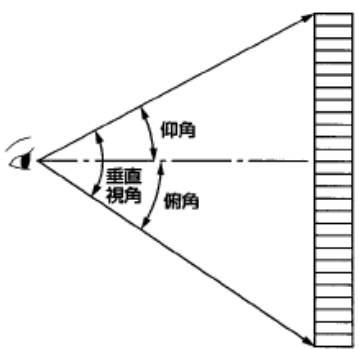
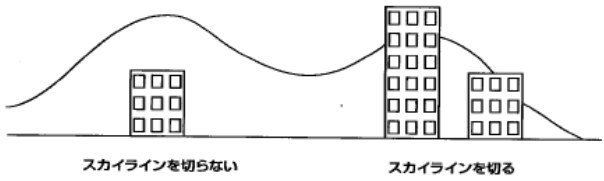
(b) 主要な眺望景観の変化

フォトモンタージュ法による視覚的な表現方法により、計画路線完成後の予想図を再現し、主要な眺望景観からの景観の変化の程度を把握した。また、視覚に関する物理的指標について整理するとともに、必要に応じて主要な眺望景観からの景観の変化の程度を把握するための参考とした。視覚に関する物理的指標を表 12. 12. 1-4 (P12. 12-10～11) に示す。

■用語の説明■

フォトモンタージュ法：撮影した現状の写真上に、対象事業の完成予想図を合成して、眺望景観の変化を予測する方法。最も一般的に用いられている方法であり、再現性に優れ、適用範囲も広い。

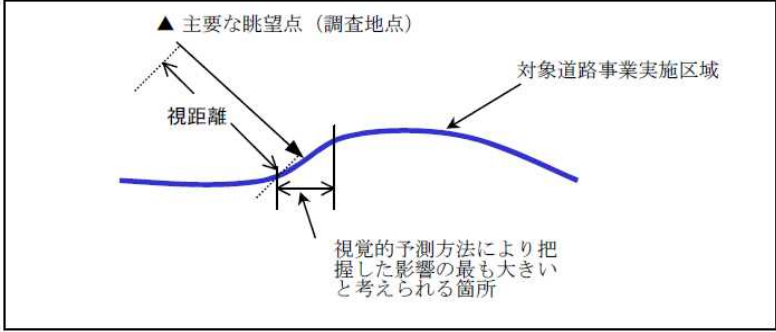
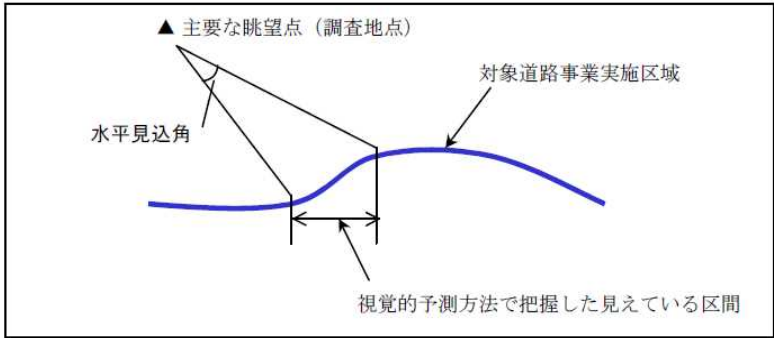
表 12.12.1-4(1) 視覚に関する物理的指標

指 標	内 容	
視距離	視距離によって施設などの認知を規定する要因（テクスチャー、色彩、形態等）が変化するので、保全水準の達成の程度の判定及び保全対策の立案への指標としても役立つ。	景観の視距離を近景・中景・遠景と区分すると、この3区分は対象によってその絶対的距離は異なってくるが、概ね以下のような感覚でとらえられる。 ○近景…対象の要素やディテールが目につきやすい領域（500m 程度以内） ○中景…対象全体の形態がとらえやすく、対象が景観の主体となる領域（500m～3 km程度） ○遠景…対象が景観のごく一部となる領域（3 km程度以遠）
水平見込角	視点からの対象の見えるの大きさを表わす指標で、視点から対象を見込む水平見込角を指標値としている。	水平見込角が、10° を超えると対象構造物は目立つようになる。  α : 垂直視角 β : 水平見込角
仰角	仰角とは、対象物の上端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。構造物の見える面積とほぼ比例関係にある仰角を圧迫感の指標として用いる。仰角が大きいと圧迫感を感じる。	仰角は 18° になると圧迫感が感じられ始め、30° では対象物が全視野を占め、圧迫感がのこる（メルテンスの法則）。 また、俯角 10° 付近は俯瞰景観における中心領域であるといわれており、計画路線がその周辺に位置する場合は目につきやすくなる。 
俯角	対象物の下端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。俯瞰景観においては、俯角が目につき易さの重要な指標となる。	
スカイライン切断の有無	スカイラインとは山が空を背景として描く輪郭線のこと。	人工物の出現により、スカイラインの連続性が切断された場合には、景観上の支障が大きくなるとされている。  スカイラインを切らない スカイラインを切る

注：引用文献 1)、4) 及び参考図書「自然環境アセスメント技術マニュアル」により作成。

出典：「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第 714 号」
(平成 25 年 3 月 国土技術政策総合研究所)

表 12.12.1-4(2) 物理的指標の解析方法

指標名	解析方法
視距離	① フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、影響の最も大きいと考えられる箇所を把握する。 ② 地形図に①で把握した箇所を示す。 ③ 主要な眺望点（調査地点）と②で示した箇所の距離を測定する。 
水平見込角	① フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、計画路線が見えている区間を測定する。 ② 地形図に①で測定した区間を示す。 ③ ②で地形図上に示した区間の水平見込角を測定する。 
仰角・俯角	① フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、影響の最も大きいと考えられる箇所を把握する。 ② 地形図に①で把握した箇所を示す。 ③ 主要な眺望点（調査地点）と②で示した箇所の標高データを地形図上で測定する。 ④ ③で測定した標高データと視距離より仰角（俯角）を算出する。
スカイライン 切断の有無	フォトモンタージュ等の視覚的予想方法を用いて、スカイラインの切断の有無を把握する。

出典：「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第 714 号」
（平成 25 年 3 月 国土技術政策総合研究所）

(2) 予測地域及び予測地点

a) 主要な眺望点からの景観資源の改変

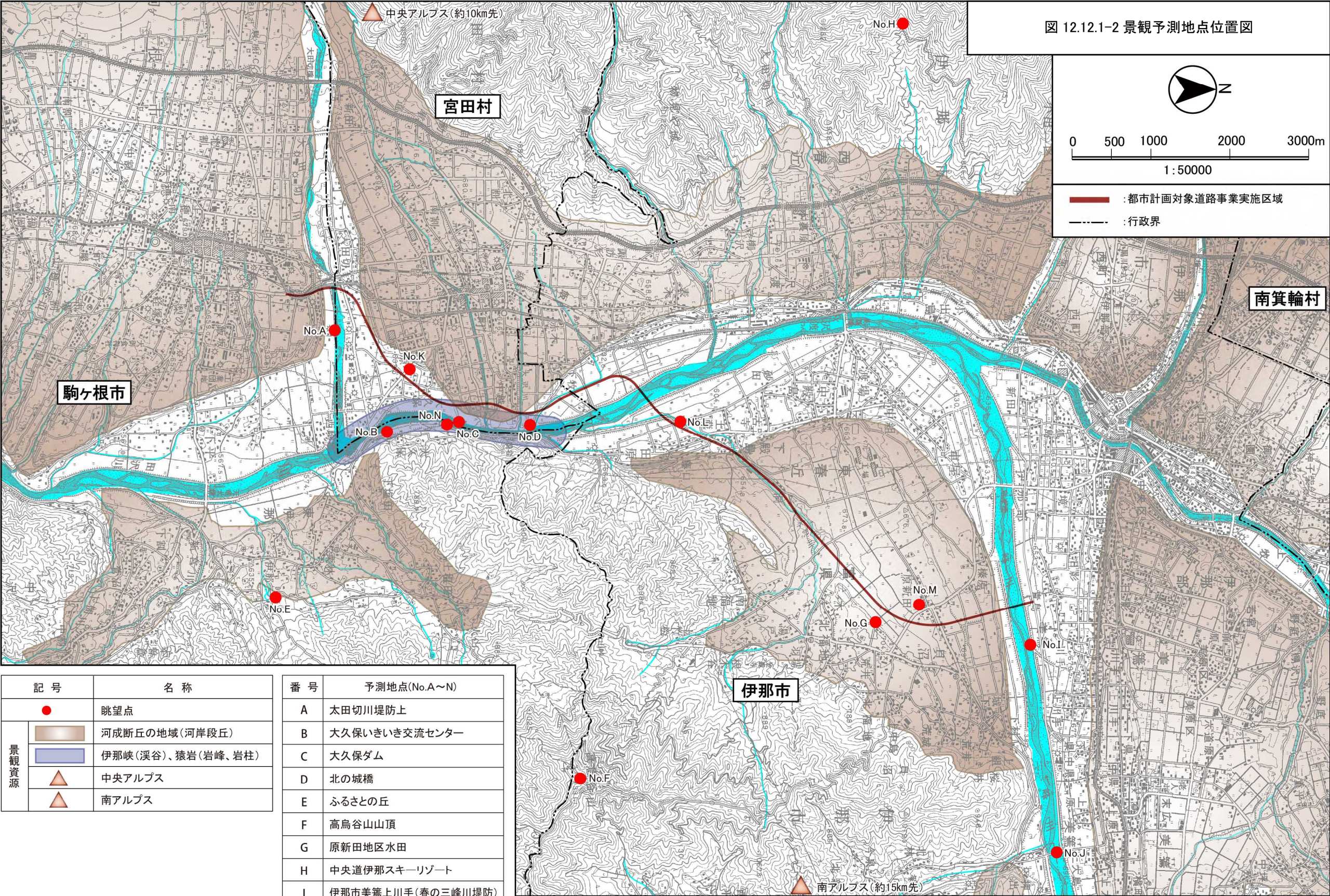
予測地域は、調査地域のうち、主要な眺望点及び景観資源の改変が生じるおそれがある地域を選定した。

b) 主要な眺望景観からの景観の変化

調査地域のうち、景観の特性を踏まえ、主要な眺望景観からの景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。予測地点の位置を表 12. 12. 1-5 (P12. 12-13) 及び図 12. 12. 1-2 (P12. 12-14) に示す。

表 12.12.1-5 景観の予測地点の選定(主要な眺望景観)

番号	名称	景観資源	計画路線の 可視・不可視	予測 対象	予測 地点 番号
1	中央道伊那スキーリゾート	南アルプス 河岸段丘	可視	○	H
2	ふるさとの丘	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	E
3	北の城橋	伊那峡・猿岩 中央アルプス	可視	○	D
4	伊那市西春近小出島(天竜の流れ)	南アルプス	不可視	×	-
5	伊那市西春近小出島 (天竜川の鮎漁)	南アルプス	不可視	×	-
6	原新田地区水田	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	G
7	真菰が池 (伝説の真菰が池と中央アルプス)	中央アルプス	不可視	×	-
8	高鳥谷山山頂 (山頂から望む伊那谷と中央アルプス)	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	F
9	春日公園(雪の春日公園)	-	不可視	×	-
10	伊那市中央(川べりの街並み)	中央アルプス	不可視	×	-
11	伊那市美簗上川手 (春の三峰川堤防)	中央アルプス	可視	○	I
12	三峰川橋 (三峰川と残雪の中央アルプス)	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	J
13	伊那市手良野口(収穫の秋の手良)	中央アルプス	不可視	×	-
14	伊那市下新田(春の天竜川)	南アルプス	不可視	×	-
15	信州伊那アルプス街道	中央アルプス	不可視	×	-
16	太田切川堤防上	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	A
17	大久保いきいき交流センター	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	B
18	大久保ダム	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	C
19	猿岩水面展望所	伊那峡・猿岩	不可視	×	-
20	宮田村大久保地区	水田・集落	可視	○	K
21	伊那市下殿島地区	水田・集落	可視	○	L
22	伊那市原新田地区	水田	可視	○	M
23	大久保発電所	中央アルプス 河岸段丘	可視	○	N



出典:「駒ヶ根市景観計画」(平成25年6月 駒ヶ根市)
「宮田村景観計画」(平成29年4月 宮田村役場建設課建設係)
「伊那市景観計画」(平成26年2月 伊那市建設部都市整備課)
「第3回自然環境保全基礎調査 長野県自然環境情報図」(平成元年 環境庁自然保護局自然環境調査室)
「さわやか信州旅.net」(平成30年7月確認 長野県観光機構)
「伊那市パノラマビューポイントマップ」(伊那市、伊那市観光協会)
「ホームページ」(平成30年7月確認 国土交通省、駒ヶ根市)

(3) 予測対象時期

予測の対象時期は、計画路線の完成する時期において、主要な眺望点からの景観の利用状況（利用時期等）、景観資源の自然特性（見どころとなる時期等）を踏まえ、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観からの景観の影響を明らかにする上で適切な時期を設定した。

(4) 予測結果

a) 主要な眺望点及び景観資源の改変

主要な眺望点の改変については、都市計画対象道路事業の実施による改変はない。景観資源の改変割合等を以下に示す。

(a) 河成段丘の地域（河岸段丘）

景観資源である河成段丘の面積は非常に大きいため、総面積は不明である。なお、図12.12.1-2（P12.12-14）に図示している範囲の面積は約80km²である。また、計画路線における改変面積はおよそ0.28km²であり、図示範囲における改変割合は0.35%程度である。改変される段丘崖は7箇所であり、段丘崖の改変の長さは約20～100m、最大改変幅は約30～70mである。以上から、景観資源の改変面積はわずかであり、資源の価値を大きく損なうものではないと予測される。

表 12.12.1-6 段丘崖の改変長さ及び最大改変幅

番号	名称	改変長さ	最大改変幅
a	太田切川南崖線	約 20m	約 30m
b	大久保北崖線	約 100m	約 70m
c	中越南崖線	約 30m	約 40m
d	中越北崖線	約 30m	約 40m
e	西春近南崖線	約 60m	約 30m
f	三峰川左岸段丘南崖線	約 30m	約 40m
g	三峰川左岸段丘北崖線	約 30m	約 30m

(b) 伊那峡（峡谷）、猿岩（岩峰・岩柱）

景観資源である伊那峡、猿岩の分布する面積は約1.22km²であり、計画路線における改変面積はおよそ0.028km²であるため、改変割合は2.3%程度である。以上から、景観資源の改変面積はわずかであり、資源の価値を大きく損なうものではないと予測される。

(c) 中央アルプス

景観資源である中央アルプスは、図示範囲外の約10km西に位置しており、計画路線における改変はなく、景観資源の価値を損なうことはないとは予測される。

(d) 南アルプス

景観資源である南アルプスは、図示範囲外の約 15km 東に位置しており、計画路線における改変はなく、景観資源の価値を損なうことはないと予測される。

b) 主要な眺望景観の変化

(a) 主要な眺望景観の変化

都市計画対象道路事業の実施により主要な眺望景観の変化が生じると想定される主要な眺望点において、フォトモンタージュ法により主要な眺望景観の変化の程度を予想した。

A 太田切川堤防上

本眺望景観は、太田切川堤防上から西方向に景観資源である河岸段丘、中央アルプスを眺望している。計画路線のうち橋梁部・高架部が眺望の中央部分を横断する形で視野に含まれるが、可視の程度は小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 133.3 度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である中央アルプスや河岸段丘の眺望にほとんど変化はない。また、仰角は 3.4 度と圧迫感が生じない角度となっており、スカイラインの切断も生じない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測する。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(1)に示す。

表 12.12.1-7(1)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 500m
水平見込角	133.3°
仰角	3.4°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(1) 主要な眺望景観の変化(A 太田切川堤防上)

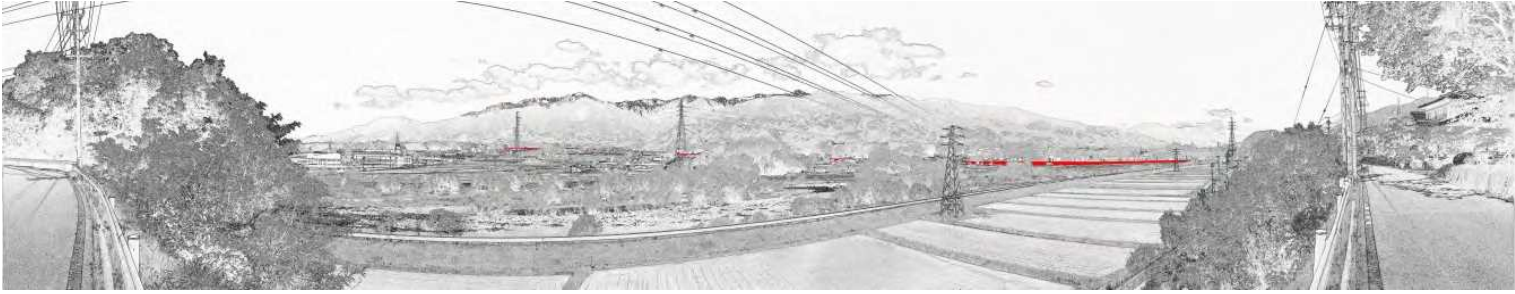
撮影条件	
撮影日	平成 29 年 1 月 26 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

B 大久保いきいき交流センター

本眺望景観は、大久保いきいき交流センターから西方向に景観資源である伊那峡、河岸段丘、中央アルプスを眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の端部を横断する形で視野に含まれるが、可視の程度は小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は中景に位置しており、水平見込角は 93.6 度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である中央アルプスや伊那峡、河岸段丘の眺望にほとんど変化はない。また、俯角は 0.4 度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(2)に示す。

表 12.12.1-7(2)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 690m
水平見込角	93.6°
俯角	0.4°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 5 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

写真 12.12.1-1(2)主要な眺望景観の変化(B 大久保いきいき交流センター)

C 大久保ダム

本眺望景観は、大久保ダムから西方向に景観資源である中央アルプス、河岸段丘を眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部分を横断する形で視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 54.8 度と構造物は目立つ値となっている。また、仰角は 1.4 度と圧迫感が生じない角度となっており、スカイラインの切断は生じない。フォトモンタージュからは、構造物が河岸段丘の眺望の下部で一部重なる状況が見られる。フォトモンタージュおよび物理的指標による解析結果からは、構造物は目立つものと予測され、一部景観資源と重なる部分があることから、景観の構造に変化が生じると予測される。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(3)に示す。

表 12.12.1-7(3)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 180m
水平見込角	54.8°
仰角	1.4°
スカイライン切断	なし

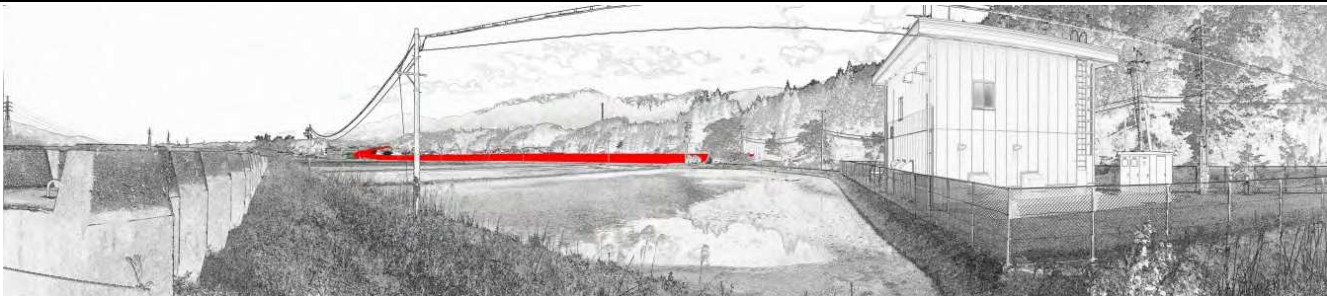
現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(3) 主要な眺望景観の変化(C 大久保ダム)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 5 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

D 北の城橋

本眺望景観は、北の城橋から北西方向に景観資源である中央アルプス、河岸段丘を眺望している。計画路線のうち橋梁部・高架部が眺望の中央部分を横断する形で視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は中景に位置しており、水平見込角は55.7度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である中央アルプスや河岸段丘の眺望にほとんど変化はない。また、仰角は0.3度と圧迫感が生じない角度となっており、スカイラインの切断も生じない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(4)に示す。

表 12.12.1-7(4)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 1,540m
水平見込角	55.7°
仰角	0.3°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(4)主要な眺望景観の変化(D 北の城橋)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 2 月 3 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム 換算焦点距離	28mm

E ふるさとの丘

本眺望景観は、ふるさとの丘から西方向に景観資源である河岸段丘、中央アルプスを眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部で視野に含まれるが、可視の程度はごく小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は遠景に位置しており、水平見込角は16.6度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、可視部分はごくわずかであり、景観資源である中央アルプスや河岸段丘の眺望にほとんど変化はない。また、俯角は1.2度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(5)に示す。

表 12.12.1-7(5)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 3,300m
水平見込角	16.6°
俯角	1.2°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(5) 主要な眺望景観の変化(E ふるさとの丘)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 4 月 23 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

F 高鳥谷山山頂（山頂から望む伊那谷と中央アルプス）

本眺望景観は、高鳥谷山山頂から西方向に景観資源である河岸段丘、中央アルプスを眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の右端部で視野に含まれるが、可視の程度はごく小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は遠景に位置しており、水平見込角は91.0度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、可視部分はごくわずかであり、眺望にもほとんど変化はない。また、俯角は9.0度と俯瞰景観の中心領域からやや目につきやすい位置にあるものの、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(6)に示す。

表 12.12.1-7(6)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 4,310m
水平見込角	91.0°
俯角	9.0°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(6)主要な眺望景觀の変化(F 高鳥谷山山頂(山頂から望む伊那谷と中央アルプス))

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 4 月 23 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

G 原新田地区水田

本眺望景観は、原新田地区水田から西方向に景観資源である河岸段丘、中央アルプスを眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部で視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は144.9度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である中央アルプスや河岸段丘の眺望にほとんど変化はない。また、俯角は1.3度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(7)に示す。

表 12.12.1-7(7)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 220m
水平見込角	144.9°
俯角	1.3°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(7)主要な眺望景観の変化(G 原新田地区水田)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 5 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

H 中央道伊那スキーリゾート

本眺望景観は、中央道伊那スキーリゾートから東方向に景観資源である河岸段丘、南アルプスを眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部で視野に含まれるが、可視の程度はごく小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は遠景に位置しており、水平見込角は27.4度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、可視部分はごくわずかであり、眺望にもほとんど変化はない。また、俯角は2.1度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(8)に示す。

表 12.12.1-7(8)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 5,530m
水平見込角	27.4°
俯角	2.1°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 5 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

写真 12.12.1-1(8) 主要な眺望景觀の変化(H 中央道伊那スキーリゾート)

I 伊那市美篤上川手（春の三峰川堤防）

本眺望景観は、三峰川堤防から西方向に景観資源である中央アルプスを眺望している。計画路線のうち盛土部及び橋梁部・高架部が眺望の中央部で視野に含まれるが、可視の程度はごく小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は中景に位置しており、水平見込角は51.8度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、可視部分はごくわずかであり、眺望にもほとんど変化はない。また、俯角は0.4度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(9)に示す。

なお、本眺望点は、三峰川堤防上に存在する三峰川サイクリング・ジョギングロード上となっている。三峰川サイクリング・ジョギングロードは、計画路線と交差する箇所において特に近接することから、人と自然との触れ合いの活動の場に対する快適性の変化における風景の変化を把握するため交差箇所付近のフォトモンタージュ等を資料編（第9章）に示す。

表 12.12.1-7(9) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 590m
水平見込角	51.8°
俯角	0.4°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(9) 主要な眺望景観の変化(I 伊那市美篤上川手(春の三峰川堤防))

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 4 月 23 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

J 三峰川橋（三峰川と残雪の中央アルプス）

本眺望景観は、三峰川橋から西方向に景観資源である中央アルプスを眺望している。計画路線のうち橋梁部・高架部が眺望の中央部で視野に含まれるが、可視の程度はごく小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は遠景に位置しており、水平見込角は4.2度と構造物は目立たない値となっている。また、俯角は0.3度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(10)に示す。

表 12.12.1-7(10)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 3,140m
水平見込角	4.2°
俯角	0.3°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(10) 主要な眺望景観の変化
(J 三峰川橋(三峰川と残雪の中央アルプス))

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 4 月 23 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム 換算焦点距離	28mm

K 宮田村大久保地区

本眺望景観は、宮田村大久保地区から東方向を望む生活上の眺望景観であり、水田・集落を眺望できる。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部で視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は51.7度と構造物は目立つ値となっている。また、俯角は0.3度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。フォトモンタージュからは、構造物が水田・集落の眺望で一部重なる状況が見られる。フォトモンタージュおよび物理的指標による解析結果からは、構造物は目立つものと予測され、一部景観資源と重なる部分があることから、景観の構造に変化が生じると予測される。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(11)に示す。

表 12.12.1-7(11)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 130m
水平見込角	51.7°
俯角	0.3°
スカイライン切断	なし

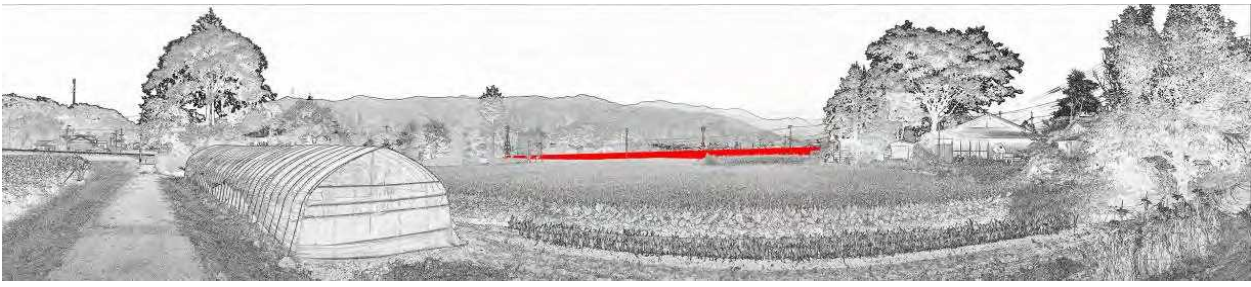
現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(11) 主要な眺望景観の変化(K 宮田村大久保地区)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 8 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

L 伊那市下殿島地区

本眺望景観は、伊那市下殿島地区から東方向を望む生活上の眺望景観であり、水田・集落を眺望できる。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部で視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は179.3度と構造物は目立つ値となっている。また、仰角は3.0度と圧迫感が生じない角度となっており、スカイラインの切断も生じない。フォトモンタージュからは、構造物が水田・集落の眺望で一部重なる状況が見られる。フォトモンタージュおよび物理的指標による解析結果からは、構造物は目立つものと予測され、一部景観資源と重なる部分があることから、景観の構造に変化が生じると予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(12)に示す。

表 12.12.1-7(12)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 70m
水平見込角	179.3°
仰角	3.0°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1 (12) 主要な眺望景観の変化(L 伊那市下殿島地区)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 8 月 27 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

M 伊那市原新田地区

本眺望景観は、伊那市原新田地区から東方向を望む生活上の眺望景観であり、水田を眺望できる。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部で視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は125.9度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である水田の眺望にほとんど変化はない。また、俯角は0.4度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測される。物理指標による解析結果を表12.12.1-7(13)に示す。

表 12.12.1-7(13)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 210m
水平見込角	125.9°
俯角	0.4°
スカイライン切断	なし

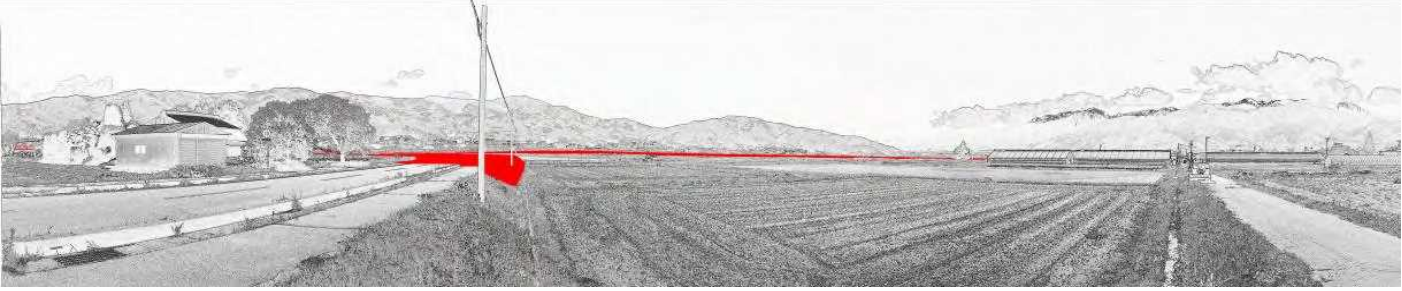
現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(13) 主要な眺望景観の変化(M 伊那市原新田地区)

撮影条件	
撮影日	平成 29 年 5 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	SIGMA DP1 Merrill
レンズ焦点距離	19mm
35mm フィルム換算焦点距離	28mm

N 大久保発電所

本眺望景観は、大久保発電所から西方向に景観資源である河岸段丘、中央アルプスが連続する田園風景を眺望している。計画路線のうち盛土部が眺望の中央部分を横断する形で視野に含まれるが、可視の程度は小さい。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 52.4 度と構造物は目立つ値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である河岸段丘や中央アルプスの眺望にほとんど変化はない。また、俯角は 1.1 度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じていない。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測する。物理指標による解析結果を表 12.12.1-7(14)に示す。

表 12.12.1-7(14)視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 290m
水平見込角	52.4°
俯角	1.1°
スカイライン切断	なし

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

写真 12.12.1-1(14) 主要な眺望景観の変化
(N 大久保発電所)

撮影条件	
撮影日	平成 30 年 6 月 19 日
天候	晴れ
使用カメラ	Cannon EOS 8000D
レンズ焦点距離	18mm
35mm フィルム 換算焦点距離	29mm

3) 環境保全措置の検討

(1) 保全対象

本事業により、景観の構造に変化が生じると予測した眺望点を保全対象とした。このほか、特定の眺望点のみでなく、計画路線全域を対象とする環境保全措置についても検討することとした。環境保全措置の検討対象を表 12.12.1-8 に示す。

表 12.12.1-8 環境保全措置の検討対象

対象とした眺望点	視距離
大久保ダム	約 180m
宮田村大久保地区	約 130m
伊那市下殿島地区	約 70m

(2) 環境保全措置の検討

予測結果より、道路の存在による景観の影響を低減するための環境保全措置として、3案の環境保全措置を検討した。検討の結果、「法面等の緑化」及び「道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の検討（近景域における影響の場合）」を採用する。検討した環境保全措置を表 12.12.1-9 に示す。なお、保全措置の実施に当たっては、駒ヶ根市、宮田村、伊那市の各自治体において景観計画が策定されており、色彩、植栽等に関して景観計画に沿って検討を行う。

表 12.12.1-9 環境保全措置の検討

環境保全措置	対象とした眺望点	実施の適否	適否の理由
ラウンディングによる周辺地形との調和	特定の眺望点を想定していない	否	周辺景観に調和させることが可能であり、効果が確実に見込めるが、動物・植物・生態系への影響を考慮し、本環境保全措置を採用しない。
法面等の緑化 (各市村景観計画に沿った樹種等の検討)	大久保ダム 宮田村大久保地区 伊那市下殿島地区	適	周辺景観に調和させることが可能であり、効果が確実に見込めることから、本環境保全措置を採用する。
道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の検討（近景域における影響の場合） (各市村景観計画に沿った色彩等の検討)	大久保ダム 宮田村大久保地区 伊那市下殿島地区	適	周辺景観に調和させることが可能であり、効果が確実に見込めることから、本環境保全措置を採用する。

(3) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断される。

(4) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「法面等の緑化」及び「道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の検討（近景域における影響の場合）」の効果、実施位置、他の環境への影響について整理した結果を表 12.12.1-10 に示す。なお、環境保全措置の実施に当たっては、専門家等の意見を聴取しながら適切に行うものとする。

表 12.12.1-10(1)検討結果の整理

実施主体		長野県
実施内容	種類	法面等の緑化
	位置	法面が発生する箇所
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることが可能である。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

表 12.12.1-10(2)検討結果の整理

実施主体		長野県
実施内容	種類	道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の検討（近景域における影響の場合）
	位置	対象眺望点（大久保ダム・宮田村大久保地区・伊那市下殿島地区）付近
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることが可能である。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

4) 事後調査

予測手法は図上解析による改変の位置、程度の把握、主要な眺望景観の変化を把握するフォトモンタージュ等、多くの実績を有する手法であり、予測の不確実性が小さいと考えられている。また、採用した環境保全措置についても効果にかかる知見が十分に把握されているものと判断でき、効果の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しないものとする。

5) 評価

(1) 回避又は低減に係る評価

計画路線は道路の計画段階において、盛土構造を始めとした道路構造の検討を実施しており、景観への影響に配慮し、環境負荷の低減を図っている。また、環境保全措置として、「法面等の緑化」及び「道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の検討（近景域における影響の場合）」の環境保全措置を実施することで、環境負荷を低減する。このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲でできる限り低減されているものと評価する。